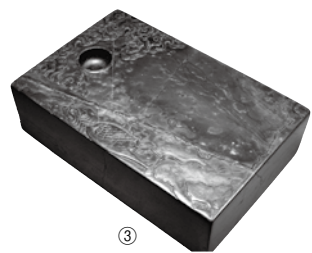
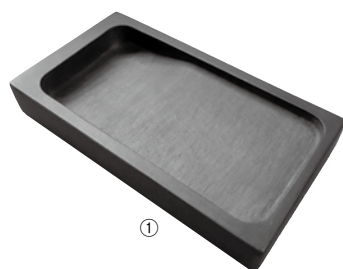


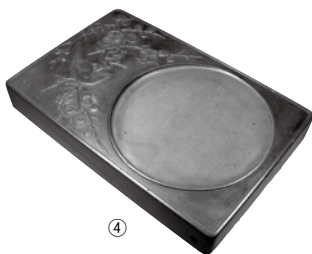
⑤



③



①



④



②

①羅紋硯 小・中学校で広く普及している硯。
②端溪硯 石の自然の形を生かして作られた天然硯。③歙州硯 夜空に浮かぶ星のような金色の石紋が美しい鑑賞用の硯。④澄泥硯（ちょうでいけん） 梅の花と鳥の彫りが施された鑑賞用の硯。澄泥硯は端溪硯・歙州硯に次ぐ名硯。⑤洮河緑石硯（とうがりよくせきけん） 底がコの字型になった「太子硯」という硯式。産出量が少なく希少。



▲「硯を触ると、どんな石が使われているか大体わかります」と、青柳さん。



る硯を「墨おりのよい硯」といったりもするんですよ。
端溪硯、歙州硯は安いものでも数千円、高いものだと何十万円もします。ですから、中学生の皆さんには、安価な羅紋硯をおすすめしています。千円ぐらいから購入することができまよ。安い硯でもきちんと手入れをすれば、墨はおりますので、最初は羅紋硯で十分だと思います。
——硯には、どのような種類があるのですか。
特に有名な産地は、宮城県の雄勝、山梨の雨畑、四国の土佐ですね。うちの店で扱っているのは、雄勝硯です。雄勝で採れる玄昌石は、粘板岩で層になっていて石質が細かく、独特のよさがあります。

磨った墨をためる部分を、墨池と呼びます。昔の中国の硯は、墨池が狭いものがほとんどです。当時は、墨を少し磨って手紙を書くことが多かったたので、墨池が狭くてもよかったです。今は、半紙に大きな文字を書くことが多いので、墨池が広いほうが好まれます。また、墨を磨る部分を、墨堂と呼びます。
墨を磨るときは、墨堂に少量の水を注ぎ、濃くなるまで磨り、墨池に落とし、それを繰り返していき、墨池にたまる

2 墨の磨り方

——お店に並ぶ硯を見てみると、墨液をためる部分が広いものと狭いものがありますね。

硯のことをいろいろお聞きしたいな。

浅草・雷門の近くにお店を構える、宝研堂さんへ行ってきたよ。

イラスト：北村ケンジ

——学校で使っている硯は長方形のもですが、お店にはいろいろな形の硯がありますね。
硯の形を「硯式」というのですが、長方形のものを長方硯、自然の石の形を生かしたものを天然硯と呼びます。それ以外にもさまざまな硯式がありますが、書写の時間に使うような実用硯（鑑賞用でなく実用的な硯）の硯式は、大体、長方硯と天然硯だといってよいでしょう。
——硯に使われている石は、どこで採れるのでしょうか。

1 硯の種類

中国と日本です。中国の石で作られた硯を唐硯といい、日本の石で作られた硯を和硯といいます。
唐硯については、すごく種類が多いんです。その中で、中国の二大名硯といわれるのが、端溪硯、歙州硯です。特に、広東省の斧柯山一帯で採れる端溪石で作られる端溪硯は有名です。石質が緻密で、細かく墨がおりるんです。うちの店でも、端溪硯は多く取り扱っています。
——「墨がおりる」とは、どういうことですか。
墨が磨れて墨液になることを「墨がおりる」といいます。墨がよい具合に磨れる



▲さまざまな種類の硯が並ぶ店内。

教えて！硯のこと

このコーナーでは、これまで筆・墨・紙とご紹介してきましたが、今号でいよいよ最終回。硯についてご紹介します。硯の工房を持つ書道用具店・宝研堂（東京都台東区）へお邪魔し、四代目の青柳貴史さんにお話を伺いました。



1 石の形を整える

採石された硯材を、丸鋸まるのこを使って使用するサイズに切り分ける。次に円盤という、大きな円型の機械を使い、大まかな形に整える。



2 機械彫り

昔はすべて手彫りだったが、近年は墨堂の部分、墨池のいちばん深い部分などは機械を使って彫る。仕上げ彫りのときに時間がかからないよう、丁寧に彫る。



3 仕上げ彫り

機械彫りした硯材を整えるようにして、手で彫っていく。長方硯の場合、硯の胸の部分が左右対称に彫れているかなど、細心の注意を払う。



4 磨き

砥石や耐水ペーパーを使って、なめらかに研磨する。長方硯の場合、この磨きの工程がいちばん時間がかかり、また硯の出来を左右する。そして最後に泥砥石どろといしで目立てをする。



5 仕上げ

磨き上がった硯をよく乾かし、全体に薄墨を塗る。墨が完全に乾いたところで漆を塗り、いったん乾燥させる。その後、墨堂の部分の漆を磨いて完成。

硯ができるまで

昭和十三年の創業以来、宝研堂の硯は、書家の先生など多くの人々に愛されています。二階にある工房では、硯の製作も行っています。その主な工程をご紹介します。



3 硯の手入れ

硯の手入れのしかたを教えてください。

使い終わった硯は、毎回きれいに水洗いし、水気を拭き取って乾かすのが理想です。墨堂、墨池の隅の部分には、墨が残ってこびりつきやすいので、つまようじなどを使って、丁寧に墨を取り除くといいですね。

また、どんなにいい硯でも、長い間使っていると、墨がおりにくくなります。硯には「鋒鉈ほうた」という細かい突起があり、これによって墨を磨ることができのですが、長く使っていると、この鋒鉈が磨減してしまうんです。鋒鉈をよみがえらせるためには、目立砥石めだといしと呼ばれる柔らかい砥石をかけるのがいちばんです。目

た墨を、適度な濃度に薄めて使用します。墨の持ち方は、垂直に磨る方法と、斜めに当て、適当なところで裏返して磨る方法とがありますが、垂直に磨る場合は墨をそのまま墨堂の上に放置しないようにしましょう。わずかな時間でも墨が硯にくっついてしまいますので。



▲硯は、手だけで彫らず、肩を支点にして体全体の力をかけて彫っていく。

立砥石は、書道用具店で売っていますので、墨を磨る要領で砥いでみてください。——お店でも、硯の修理をしてくれるそうですね。

はい。硯の研磨、目立てはもちろん、割れたり欠けてしまったりした硯でも、再び使えるように修理することができま

すよ。また、うちの店では、修理だけでなく硯の製作も行っています。私は十代の頃から、祖父や父から作硯（硯を作ること）を教わってきましたが、硯の世界は奥が深く、とてもやりがいがあります。

思い返せば、子どもの頃から、硯が身近にあったので、よく墨を磨って字を書いていました。墨は磨り方によって濃度が変わり、それによって書く文字の印象も変わるので、それがおもしろくてしか



株式会社 宝研堂
東京都台東区寿4-1-11
TEL: 03-3844-2976
営業時間: 月曜～土曜 9:00～18:00
第1・3日曜 10:00～17:00
定休日: 第2・4・5日曜、祝日

たなかったんです。今、自分で作った硯をお客様にお送りするとき、必ずお手紙を添えるのですが、いつも墨を磨りながら「どのようなことを書こうか」と思いを巡らせます。そういう、墨を磨りながら考える時間が、私にとっては大事ですね。

書写の時間では、墨液を使うことが多いのですが、墨は、磨り方によって書いた文字の表情が変わるというおもしろさがありますし、墨を磨る時間というのは、なかなかよいものです。

ぜひ、硯を使って墨を磨る機会を増やしていただきたいと思います。